

まかせて おつかい

～生活に必要な技能を養う買い物学習の実践を通して～

(総授業時数：35時間)

実施学年、教科など

特別支援学級 A 男（高学年）・B 男（中学年）、生活単元

単元（題材）の目標

◎買い物ごっこや実際の店での買い物を楽しく体験することで、買い物の技術を身につけることができる。

○ A 男（高学年）

- ・カードに示された品物をメモ用紙に書き、メモ用紙を見て品物を選ぶことができる。
- ・買い物に必要な「〇〇ください」といった会話を身につけ、500円や100円、50円、10円の違いを認識しながらお金を払うことができる。

○ B 男（中学年）

- ・カードに示された品物を、カードと値札の文字を見比べながら選ぶことができる。
- ・財布へのお金の出し入れをきちんとできる。
- ・買い物に必要な「〇〇ください」といった会話を身につけ、100円と10円を認識し、お金を払うことができる。

学習の評価

- 1 買い物に関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。
- 2 カードを見たり、メモ用紙に名前を書いたりして、品物を選ぶことができる。
- 3 品物選び、お金の支払いなどの買い物の技術を身につけることができる。
- 4 お金の種類を理解することができる。

展開の特色

特別支援学級の子どもたちは、それぞれに障がいの種類や程度が異なり、同じ基盤に立った学習が成立しにくい。そこで、一人ひとりの学習活動を大切にしながら、みんなで一緒に楽しく取り組める学習、しかも日常生活に活かすことができる力を身につけるための体験学習を考えた。

子どもたちは買い物が好きである。教室に模擬店「スーパーサンクミ」を開き、子どもたちが買い物ごっこを繰り返しながら、買い物の仕方を学び、実際に店で買い物をするという体験的な学習を考えた。

事前の準備と留意点

- 教師の支援として以下のことに心がけて関わりを深めたい。
- ・おつかいを頼むときは、個々の能力に合った頼み方をする。また、子どもが使いやすい形や大きさの財布を用意することで、行動の円滑化を図る。
 - ・児童の日常生活に活かされるように実際のスーパーマーケットに近い売り場を作り、本物のお金を使って買い物をさせる。
 - ・お金には種類があることを認識させるため、500円、100円、50円、10円の絵の貼ってある学習カードを用意し、実際のお金をカードの絵の上に置くことで学習の定着を図る。
 - ・お楽しみ会、調理実習など買い物が必要な機会を設定し、実際にスーパーマーケットやコンビニエンスストアに出かけて買い物体験をさせることで、日常生活での自立を促す。

入門ガイド

小学校における入門ガイド

中学校（社会）における入門ガイド

中学校（技術・家庭）における入門ガイド

実践事例

幼稚園における実践事例

小学校における特別支援学級の実践事例

中学校における実践事例

高等学校における実践事例

資料

金融教育に関する年間指導計画の例

資料

指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 2	・買い物をしてみたいという意欲をもつ。	○お店を作って品物を自由に作ったり、並べたりする。 ○作ったお店屋さんで、買い物ごっこをする。
3	・実際に店へ出かけ、買い物にはお金が要ること、お金と品物とを交換することに気づく。	○本物のお店がどうなっているのか見学する。 ・どんな品物があるのか見学をする。 ○買いたい物を探しながら、会話やお金の払い方を知る。 ・自分が買いたい物をさがす。 ・買いたい物を店員に告げる。 ・お金を払う。 ・袋に買った品物を入れる。
4 5 6	・買い物には、お金が必要であることやお金にはいろいろな種類があることを知る。	○自分たちのお店を開く。 ・看板や商品の棚を作って店を開く準備をする。 ○お金の種類ごとの呼び方をプリントに書いたり読んだりする。 ・500円 100円 50円 10円 5円 1円
7 26 (本時)	・買い物ごっこをすることで、具体的な買い物の技術を身につける。	○買い物ごっこをする。 ・頼まれた品物を探す。 ・品物の値段に合わせて財布からお金を出し、店員役(担任)に払う。 ・買った品物を発表する。
27 34	・買い物ごっこの学びをもとに、実際に買い物をする。	○おつかいにいこう。 ・スーパーマーケットに買い物に行く。 ・コンビニエンスストアに買い物に行く。
35	・買い物の体験を絵や言葉で表す。	○買い物をした楽しかったことを絵日記に表し、先生や友達に伝える。 ・買い物をしたときの様子を話題に話し合う。 ・絵日記に買い物の様子を書く。 ・対話を通して、買い物について話の仕方を知る。

金融教育の視点	指導上の留意点	その他(資料など)
◇買い物が、実生活において必要な活動であることから、楽しんで活動する。	☆実際のお店の様子に似た場面設定をする。	
◇品物には値段があることに気づく。 ◇品物を買うためには、お金を店の人に渡さなければならないことを知る。 ◇教師から指示されたようにお金を払う。 ◇買い物の順序を知る。	☆近くのスーパーマーケットに出かけ、品物を見たり、店員さんやお客さんの様子を見学しながら、買い物をする場合の具体的な話し方を知る。 ☆調理実習の材料を買うことで、買い方や店員との受け答え方を知る。	
◇お金には種類があることを知り、読んだり書いたりする。	☆数字やひらがな、お金の読み方や書き方を練習することで、言葉で言えるようにしたり、お金の種類を認識させたりする。 ☆お金の数え方(算数)、品物の呼び方や書き方(国語)など教科との関連を図り、取り扱う。	・算数「お金」 ・文字カード ・値札 ・支払いカード ・商品棚 ・お金と品物
◇頼まれた品物を、個々に応じた買い方で正しく買うことができる。	☆その子の能力を活かしたおつかいの頼み方をする中で、自分で買い物ができるようにさせる。 A男・・・品物を書いたメモ用紙 B男・・・品物を書いた文字カード	
◇実際に買い物に出かけることで、日常生活での買い物ができるようにする。	☆子どもに買い物の必要性を実感させるため、学校の行事に合わせて、おやつを買いに出かける。 ☆実際の買い物を繰り返すことで、買い物の仕方を定着させ、自信をもたせたい。	
◇買い物について振り返らせることで、買い方や商品の名前、値段について理解する。	☆絵や文を書くときに、会話を通して具体的に思い出させるようにする。 ☆「なにを」、「いくら」など言葉を増やす問いかけをする。	

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校(社会)における入門ガイド
中学校(技術・家庭)における入門ガイド
実践事例
幼稚園における実践事例
小学校における別支援級実践事例
中学校における実践事例
高等学校における実践事例
資料
金融教育に関する年間指導計画の例
資料

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校(社会)における入門ガイド
中学校(技術・家庭)における入門ガイド
実践事例
幼稚園における実践事例
小学校における別支援級実践事例
中学校における実践事例
高等学校における実践事例
資料
金融教育に関する年間指導計画の例
資料

実践と考察

指導計画 3 時間目「本物のお店がどうなっているのか見学しよう」

【学習意欲をもたせる体験活動】

実際に店へ出かけることで、本当に買い物をしたいという気持ちをもたせる。店には、たくさんの品物が並んでおり、買うためには、レジでお金を払うことを知らせた。また、お店屋さんを作るために、買い物かごや商品の並べ方などを参考にした。



【考察】B男は目的の品物を買うために店内を歩き回った。お菓子や品物自体に気をとられ、値段に目が向かなかったため、「〇〇はいくら」と値段について言葉をかけた。

指導計画 4・5 時間目「自分たちのお店をつくらう」

【日常生活に活かせる学習環境作り】

実際のお店に近づけるような場面設定をすることで、実生活に活かせる買い物の技術を身につけさせるようにした。具体的には、子どもたちに臨場感や切実感をもたせるために、できるだけ本物のお金や商品を使ったり、手作りの商品棚を用意したりした。



【考察】本物のお金や商品を使用したことで、買い物への興味・関心を高めることができた。また、商品棚をダンボールで作ったため、準備や片付けが、子どもの手で容易にでき、抵抗なく取り組むことができた。

本時の展開

指導計画 21 時間目「買い物ごっこをしよう」

学習内容

学習活動

導入(12分)

展開(30分)

まとめ(3分)

	A男(高学年)	B男(中学年)
1. 学習のめあてを確認する。 2. 今日のおつかいで買う物を聞き、お金をもらう。	「スーパーサンクミ」で買う物を聞きましょう	
	・買う物をメモ用紙に書く。 ・お金を750円もらう。	・品物のカードをもらう。 ・お金を430円もらう。
3. 「スーパーサンクミ」で買い物をする。	おつかいに行きましょう	
	・メモ用紙を見て品物を選び、支払いカードでお金を支払う。	・カードを見て、品物を選び、支払いカードでお金を支払う。
4. 買い物したことを振り返り、買った品物を発表する。	買った物を発表しましょう	
	・買った品物を発表する。	・買った品物を発表する。
5. 学習を振り返り、次時の予告を聞く。	次時はスーパーマーケットで買い物をしましょう	
	・買ってきたいものを決める。	・買ってきたいものを決める。

指導計画 6 時間目「おかねにはいろいろな種類があるよ」

【お金の種類があることを気づかせるカード】

お金の種類があることを認識させるために、500円、100円、10円、50円、5円、1円の「おかねのなかま」カードを準備した。



お金のカードを使って、お金の種類と呼び方を学習しているよ。



お金をカードの上に重ねて、いくらか数えているよ。

【教材・教具の工夫】

- お金と品物…本物
- 品物選び…文字カード、値札
- 支払い…支払いカード
- 財布の大きさ…大きいもの
- 商品棚・レシート…手作り



【考察】本物の店に似せることで、子どもたちは、意欲的に買い物ごっこをした。数字とひらがなで、お金の読み方を書く練習をしたところ、お金の種類が分かり、「〇〇円玉」と言えるようになってきた。

【本時の目標】

全体目標：2人で仲良く買い物ごっこをし、買い物の仕方を身につけることができる。

- 準備：(教師) 商品、商品棚、硬貨(500円、100円、50円、10円)、500円、100円、50円、10円を区別するための教具、買い物かご、文字カード、メモ用紙、レシート、めあての短冊、レジ、歌のカセット
- (児童) 財布、エプロン

金融教育の視点

指導上の留意点

その他(資料など)

◇買い物をしたいという気持ちを持ち、個々のめあてを確認する。 ◇お金の種類と金額の認識をする。	A男(高学年) ☆短冊を黒板に掲示し、めあてを確認する。 ・A男に500円、100円、50円を1個ずつ、10円を10個渡す。 ☆お金の種類を認識させるための教具を用い、お金を教師と一緒に数える。	B男(中学年) ・B男に100円と10円を3個ずつ渡す。	
◇必要な商品を選ぶ。 ◇お金を払う時には、「・・・ください」、「いくらですか」など、必要な言葉を言う。	☆お金の支払いカードにお金を重ねて支払いをさせる。 [評価] ・お金の種類を認識できたか。 ・教師の指示を聞き楽しく買い物ができたか。	[評価] ・品物を正しく選べたか。 ・財布へお金の出し入れがスムーズにできたか。	
	☆学習できたことを誉め、次時への意欲をもたせる。		

2 小学校における実践事例

本時の実際

個々に応じた買い物の支援

●その子の能力を活かしたおつかいの頼み方

A男…メモ用紙に品物名をメモさせる。

B男…品物名を書いた文字カードを渡す。

●渡すお金

A男…500円、100円、50円、10円

B男…100円、10円、お金を出し入れしやすい大きい財布



お金を数える A 男とB男



大きくて開けやすい財布をもらった B 男



お目当ての品物を探す B 男



支払いをする A 男

【考察】 A 男は品物名が書かれたメモ用紙を持って買い物をすることができた。品物選びも確実にできた。B 男は大きい財布にしてからお金の出し入れが確実にできるようになった。品物選びは、文字カードと値札を見比べながら選ぶようになった。

実践を終えて

- ・家庭生活では、今まで自分から買い物をしようとする態度は見られなかったが、実際に買い物に出かけ、お金を払って買い物をする場面が見られるようになった。
- ・買い物ごっこの店を本物に近づけたことで、買い物の学習を意欲的にすることができた。
- ・買い物の学習を通して買い物時の話し方を理解してお金を計算するなど、教科に関連づけて学習することができた。
- ・買い物ごっこの学習を繰り返し行うことで、買い物の仕方がほぼ理解できてきた。今後実際の店での買い物を多く体験させたい。

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校（社会）における入門ガイド
中学校技術家庭における入門ガイド

実践事例
幼稚園における実践事例

小学校における実践事例
特別支援学級

中学校における実践事例

高等学校における実践事例

資料
金融教育に関する年間指導計画の例

資料